

松嶋夜話 卷之下 13

〔原文〕比叡山有一院主

〔訓読〕比叡山に一院主有り

〔原文〕或日一人官女延侍女至于院

〔訓読〕或る日、一人の官女侍女を延べて院に至る

〔原文〕頂禮院主云

〔訓読〕院主に頂禮して云う

〔原文〕躬有怨敵願示促壽法

〔訓読〕躬に怨敵有り、願はくは促壽法を示せ

〔原文〕若不授法不起山

〔訓読〕若し法を受けずんば、山を起さず

〔原文〕院主默要

〔訓読〕院主默要す

〔原文〕自意有何方便

〔訓読〕自ら意へらく、何の方便有らんと

〔原文〕便授増壽陀羅尼一咒去矣

〔訓読〕便ち増壽陀羅尼一咒を授け去らしむ

〔原文〕官女得意禮謝去

〔訓読〕官女意を得て、禮謝して去る

〔原文〕歴三七日至于山

〔訓読〕三七日を歴て、山に至る

〔原文〕向法院主曰

〔訓読〕院主に向かいて曰く

〔原文〕某蒙師力對治渠命

〔訓読〕某、師力を蒙りて、渠(かれ)が命を對治す

〔原文〕法力不虧

〔訓読〕法力虧(すく)なからず

〔原文〕禮謝去

〔訓読〕禮謝して去る

〔原文〕余以謂善惡之所之

〔訓読〕余善惡の之く所、以謂(おも)へらく

〔原文〕天堂地獄雖各異

〔訓読〕天堂地獄各おの異なるも雖も

〔原文〕悉不離一眞之境

〔訓読〕悉く一眞の境を離れず

〔原文〕院主授以増壽却爲促壽之法

〔訓読〕院主授くるに、増授を以てするも、却つて促壽の法と爲す

〔原文〕是以知箭穿石虎

〔訓読〕是を以て知る、箭は石虎を穿つ

〔原文〕非功力之所能

〔訓読〕功力の能くする所に非ず

〔原文〕醉告三軍豈麴蘖之所造

〔訓読〕酔いて三軍に告ぐ、豈に麴蘖の造たす所とならんや

〔原文〕皆爲心感善惡之應報如是

〔訓読〕皆心感するが爲に、善惡の應報是の如し

〔原文〕嗚呼怨力透岩

〔訓読〕嗚呼、怨力、岩を透すと

〔原文〕是此謂乎

〔訓読〕是れ此の謂いか

〔原文〕可不慎乎也

〔訓読〕慎まざるべけんや